

**探究的な学習の在り方に関する研究推進地域**

連携中学校区：海田西中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
海田小学校	15	393
海田西小学校	9	208
海田西中学校	8	218

(R4.1.1.1現在で記入)

**1 研究の概要**

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

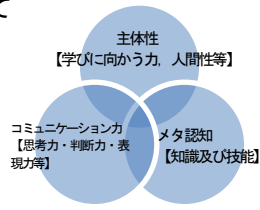
主体的に学びを深める児童・生徒の育成  
～探究的な学習の単元開発・実践・改善を通して～

児童・生徒の実態を踏まえ、主に次の2点をねらいとした。

- ① PBL（プロジェクト型学習）の考え方をもとにした、探究的な学習の単元開発・実践を行い、主体的に学びを深める児童・生徒を育成する。
- ② 児童・生徒に、他者と協働的に取り組み、異なる意見を生かして新たな知を創造しようとする態度を養う。

(2) 資質・能力の設定について

本中学校区で育成を目指す資質・能力は、主体性、コミュニケーション力、メタ認知である(図1)。これは、総合的な学習の時間の目標に示している資質・能力「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成をより確かなものにすると考えた。



【図1：本中学校区の資質・能力】  
「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成をより確かなものにすると考えた。また、探究的な学習を通して、3つの柱と資質・能力は互いに影響を与え合い、単元を深めることで、相乗効果が生まれ、一つ一つがより大きな円となり、資質・能力が高まっていくと考えた。

(3) 取組について

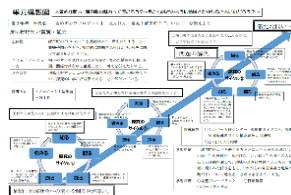
【探究的な学習の充実に向けての取組】

本中学校区では、探究的な学習のプロセスを以下のように設定し、児童生徒の学びの文脈を意識しながら取り組むようにしている。

- ・知る：フィールドワーク、事象との出会い
- ・観る：単元の見通し
- ・探る：体験活動、情報収集、整理・分析
- ・創る：創作、発信、実践等、実社会・実生活との関連
- ・省みる：振り返り、新たな課題への接続

上記のプロセスにおいて、今年度は、発信まで意欲をもって取り組み、学びの本質に迫ることができるよう単元の改善及び実践を行った。具体的な取組は、以下の二つである。

- ① 単元の見通しがもてるよう単元構想図(図2)を作成。
- ② 地域の“本物”と繋がった発信。



【資質・能力の評価】

3校で育成を目指す資質・能力「主体性」「コミュニケーション力」「メタ認知」について、3校の研究主任で、系統表を見直した。

【図2：単元構想図】

**2 実践事例 【探究的な学習の充実に向けての取組】**

(1) 授業実践事例

- ①学校・学年 海田西小学校・第3学年
- ②単元名 西のチカラプロジェクト  
～たんけん！発見！海田町の“いいね”を伝えよう～  
探究のサイクル1「校区の“いいね”を発見しよう」  
探究のサイクル2「海田町の“いいね”を発見しよう」  
探究のサイクル3「海田町の“いいね”を伝えよう」
- ③本質的な問い 海田町の魅力って何だろう？  
～私たちはどのように地域と関わるとよいのだろうか？～
- ④探究のサイクル3における単元の展開

	学習内容	児童の思考の実際
からの接続	新聞記事から、海田町の“いいね”を発見したいと考えているのは、魅力づくり推進課の方も同じであることに気付く。	・郊外に発信するにはどうすればいいのか。 ・魅力づくり推進課と協力して発信ができるかも知れないぞ。
知る	魅力づくり推進課の方の思いや様々な発信方法について話を聞く。	・魅力づくり推進課の方はどういったような思いや願いをもっているのかな。私たちの思いも伝えて一緒に取り組みたいな。 ・どのような発信方法があるのかな。
観る	実現（解決）していくための見通しをもたせ、指導者と共に学習計画を立てる。	・魅力づくり推進課の方の話を聞いて、様々な発信方法があることが分かったぞ。 ・「一緒に発信していこう」って言ってもらえたよ。効果的な発信方法を分析しよう。
探る	たくさんの人に“いいね”を知ってもらうための効果的な発信方法について、整理・分析する。	・「ポスター」「新聞」「チラシ」「デジタルサイネージ」のメリット・デメリットを出して効果的な発信方法を選ぼう。 ・「ポスター」「デジタルサイネージ」がよさそうだね。
創る	①キャッチコピーを決めてポスターとデジタルサイネージ用スライドを作成する。 ②魅力づくり推進課の方からアドバイスをもらう。	・各名所の良さを整理したものを利用してキャッチコピーを付けよう。 ・この文章では、「5秒間で“いいね”が伝わらない」って言っていたよ。 ・短くて分かりやすい文章を考えてみよう。
	魅力づくり推進課と連携して発信を行う。	・たくさんの人に“いいね”が伝わると嬉しいな。
省みる	単元を通した学びの振り返りと、今後の生活や学習への転用を言語化する。	・視点をもって海田の“いいね”をこれからも見つけていったら、生活がもっとワクワクしそうだね。

【表1：探究のサイクル3での学習内容と児童の思考の実際】

(2) 主体的に学びを深める手立て

探究のサイクル3において、効果的だった手立てを次のように考える。

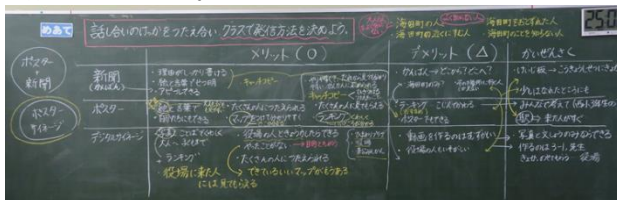
- ① 課題設定の仕方
  - ・連続性のある課題の設定
  - ・魅力づくり推進課との連携や新聞を活用し、実生活・実社会とのリアルな繋がりを意識させる場の設定
  - ・児童の学びを表現する場の設定
  - ・自分達で決定した課題解決の見通し→単元計画の掲示
- ② 協働の場づくり
  - ・思考ツールでお互いの思考を見える化(情報の共有化)
  - ・魅力づくり推進課の方からのアドバイス
- ③ 振り返りの方法
  - ・魅力づくり推進課や地域の方からの他者評価
  - ・ルーブリックを活用した自己評価

(3) 探究のサイクル3の具体的な取組及び効果

昨年度は、Google meet を活用し、海田東小学校の3年生とそれぞれが見つけた海田町の魅力について相互交流を行った。自分たちの調査した名所以外の海田町の魅力も知ることができ、新たな知を獲得するうえで効果的な交流であったが、学びの本質に迫るうえで課題が残ったと考えた。そこで今年度は、学習の発信まで地域の本物と関わり、地域に向けた発信をすることで本質に迫る学びに繋がりたいと思い、探究のサイクル3の発信を改善した。具体的な取組は、次の2点である。

- ① 発信手段の整理・分析
 

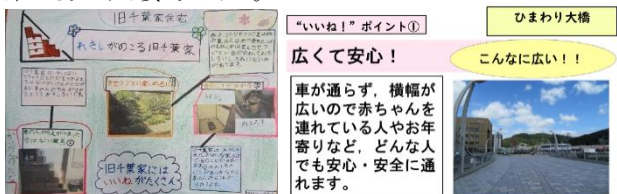
魅力づくり推進課から発信手段を紹介してもらうことで、既習の知識に新たな知識が加わり、「ともに発信していこう」と声をかけてもらうことで、発信への意欲が高まり、発信方法の整理・分析も児童主体で活発に行われた。



【図3：整理・分析の板書】

- ② 制作過程における地域の本物との連携
 

児童が考えたポスター及びデジタルサイネージ用スライド案を見てもらい、プロの視点から修正箇所のアドバイスをもらった。そうすることで、児童は、「地域の人に向けた発信」という相手意識が高まるとともに、よりよいものを作りたいと一人一人が自分事として役割を果たそうとする姿が見られた。



【図4：児童が作成したポスター及びデジタルサイネージ用資料】

発信手段を変えることで、特に2つの効果があったと考える。

- ① 自分たちも地域に貢献できるという思いから発信に対する一人一人の熱量の高まりとともに、主体性も高まった。
- ② 本物と繋がった発信を行うことで、協働することが必然となり、協働しながら学ぶよさを児童が実感し、他教科においても協働的に学ぶ学級集団へ変化していった。その過程の中で相手意識が高まり、コミュニケーション力の向上に繋がった。現在、地域に向けた発信を行っており、2月末に地域の方からの

感想をアンケートという形で回収し、3月のまとめに繋げていく。発信方法及び発信先は次の通りである。

- ポスター (海田総合公園、海田町役場)
- デジタルサイネージ (ひまわりプラザ、海田東公民館)
- 海田町役場ホームページ

【資質・能力の評価】

ルーブリックについては、昨年度同様に児童・生徒と共有化し、形骸化評価を避けようとした。また、研究授業等においても、参加者全員でルーブリックをもとに児童の個別評価を行うとともに、ルーブリックの適否について協議した。

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

- ・主体的に学びを深める児童・生徒が増加した(表2①)。地域の「人、もの、こと」を活用し、題材との出会いから発信まで、実生活・実社会と繋がりのある単元づくりができたことが成果に繋がったと考える。
- ・振り返りにおいて、次時の課題や新たな課題について考える児童・生徒が増えてきた(表2③)。学びが主体的になることで、課題が自分事となり、振り返りにも変化が見られ始めたと考えた。

(2) 課題

- ・自分の考えを積極的に伝えることへの肯定的回答率が、海田西小が17ポイント、海田小が10ポイント低下した。(表2②)。地域の人の関わりが増え、学んだことや思いを言葉にして伝えることの難しさを客観的に捉えられる児童が増えたことが低下に繋がったのではないかと考える。
- ・昨年度開発した単元を、単元構想図を用いて見える化し修正を加えることで、各学年における単元の連続性は見られるようになってきたが、学年間の連続性に課題が残った。

【表2：資質・能力に関するアンケート結果】

①授業では、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなど主体的に学習活動に取り組んでいる。			
	海田西中	海田小	海田西小
7月	75.9	81.7	89.3
1月	94.1	90.0	93.5
②授業では、自分の考えを積極的に伝えている。			
	海田西中	海田小	海田西小
7月	70.3	55.0	85.8
1月	76.1	45.0	67.8
③振り返りでは、「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたいこと」など考えている。			
	海田西中	海田小	海田西小
7月	82.1	80.0	92.9
1月	88.0	81.6	93.5

(3) 今後の改善方策等

- ・コミュニケーション力の育成において、中学校区の課題を受け昨年度より表2②の項目で見取りを行ってきたが、それだけでは図りきれないところがあった。中学校区で育成を目指す資質・能力(特に、コミュニケーション力)とは、どのような力なのか改めて整理し、評価の仕方を見直す必要がある。
- ・次年度の総合的な学習の時間における全体計画では、連続性の観点から題材の柱を地域・社会とし、児童が地域の「人・もの・こと」と関わるにより、より自分事として課題解決に取り組むことができる探究課題を設定する。